

に普段見ている図書館での本の貸出や返却などは、ごく一部でしかないことに初めて気づかされ、驚きました。

普段は、なにげなく使う図書館がこんなにたくさんの人の苦勞と工夫からできていることを初めて知りました。それで、これからは図書館を支えてくれる人に感謝をしっかりと使っていこうと思いました。

大学生のみなさん、そして職場のみなさん、4日間の間チャレンジ体験に協力して、たくさんの事を教えていただきありがとうございました。

(E. N.)

「大学でチャレンジ体験をさせてもらって」

今回、チャレンジ体験ということで4日間この京都外国語大学でお世話になり、たくさんの経験をさせていただきました。主に付属図書館で体験をさせていただきました。

私は図書館という機関の仕事としては、カウンターでの貸出、返却の手続きぐらいしか知りませんでした。しかし、チャレンジ体験をさせていただき、こんなにもたくさんの仕事があるのかと、とても驚きました。まず、本を原簿登録するという事です。その登録した本は図書館だけではなく大学にとっても財産になるということも教えていただきました。次に、蔵書印を押すということです。とても単純な作業だけど大切な作業だということも分かりました。そして作業だけでなく、仕組みについても教えていただきました。図書館の3要素、本の5つの情報（書誌データ）、図書館どうしの相互協力、本を配架するまでの流れ、などたくさんのことをお話いただきました。貸出、返却の作業でも書庫へ入る人への手続き、ノートパソコンの貸出など初めてのことを事務室の方に教えていただきました。そして、展示会もさせていただきました。「西洋料理 今昔」というテーマで昔の料理の本、現代の料理の本など展示し、その本についての説明もしました。たくさんの人に来てもらいとても楽しく、やりがいのある展示会でした。図書館の仕事が初めてだった私たちにとても丁寧に優しく教えて下さった事務室のみなさん、本当にありがとうございました。

(Y. A.)

